

最終兵器彼女

2006(平成18)年1月10日鑑賞(東映試写室)



監督＝須賀大観／原作＝高橋しん／出演＝前田亜季／窪塚俊介／木村了／貫地谷しほり／津田寛治／渋川清彦／酒井美紀／伊武雅刀／川久保拓司／二階堂智（東映配給／2006年日本映画／121分）

……これは、「サイカノ」の愛称で親しまれている高橋しん原作の人気コミックを映画化したものとのこと。しかし子ども向けあるいは少女向けアニメとしてつくるのならまだしも、一般向け映画としては、そのあまりのバカバカさにびっくり……？ 主人公2人を中心とした男女4人の凡庸なセリフ回しにうんざりするとともに、「日本滅亡」という危機があまりにも安易に描かれているのでは……？

原作は人気コミック！

原作は「サイカノ」の愛称で親しまれている高橋しん原作の人気コミックとのことだが、もちろん私はそれを知らない。ストーリーは、いかにも物騒なタイトルどおり、高校3年生の主人公ちせが武器として改造され戦争に参加していくが、その中で、どんどん兵器として進化を続けて行き、最後は……というものらしい。戦後60年を経て憲法9条の改正問題が現実的テーマとして浮上してきたことのコミック界への波及効果、とみるのはうがちすぎかもしれないが、ひょっとして……？ また、ちせが通う学校は北海道の小樽という設定だが、それは、北海道は某国からの最初の攻撃目標になる可能性が高いため……？

なぜ、ちせが？ ちせのキャラは？

多分、原作コミックではなぜ、国土防衛のために「最終兵器彼女」が開発されたのか、あるいはなぜ、ちせがそのターゲットとなったのかについて詳しく説明

されているのだろうが、この映画ではほとんどなし。ネット情報では、ちせは「ドジで不器用で泣き虫な女の子」とされ、パンフレットでは「小さくて可憐でちょっぴり不器用な」キャラと表現されている。そんなちせを演ずる前田亜季は『リンド リンド リンド』（05年）（『シネマルーム8』161頁参照）では、ドラマをたたき弾けた高校3年生をみごとに演じていたが、この映画ではそれとは全く違う表情を……。それにしても、こんな女子高生の背中からムクムクと羽根(?)が伸び、兵器に変身していくという設定はちょっとかわいそう……。

ちせの彼氏と2人の親友は？

ちせが愛を告白し、交換日記を交わしている彼氏がシュウジ（窪塚俊介）だが、中学生や高校生での性体験がほとんどとなっている今ドキ、いくら小樽の田舎(?)とはいえ、こんな純情な天然記念物みたいな高3のカップルがいるはずがない。「純愛モノ」大ハヤリという現状認識の下に、あえて、仮想的なカップルをつくりだしたのかもしれないが、その時代錯誤ぶりにはあぜん……。

シュウジの親友がアツシ（木村了）だが、そもそも高3にもなった男同士が体育館のマットの上でじゃれ合う姿がいかにもキモチ悪い（キモイ……?）。また、ちせの親友がアケミ（貫地谷しほり）。そして本当はアケミもシュウジを好きなのだが、親友のちせのために譲っているという昔のメロドラマのような設定もただけでない。2人の主演を目立たせるために設定されたサブの役割ということはよくわかるものの、もうちょっとマシな役柄を考えてほしいもの……。

いきなり札幌の空爆とは？

戦後60年間の平和を享受してきた日本だが、地球上にはいつも戦争の惨状があふれている。日本だって、いつどこからミサイルが飛んでくるかもしれないと考えて、防衛論議を充実することの必要性は私も痛感しているが、この映画がみせる、シュウジら4人が札幌に遊びに行っていた時、いきなり某国のジェット編隊が札幌のまちを空爆するという設定はあまりにひどすぎるもの。「専守防衛」を国是として、日頃訓練してきたはずの自衛隊は一体何をしていたの？ こんな大編隊の飛襲を予知できず、何らの緊急防衛対策もないとしたら、ヤバイ。たった

1人だけ、兵器ちせの活躍が目につくが、そりゃあまりにあまりというもの……。

主人公たちの仲と第2のオンナの出現……？

シュウジはちせと交換日記を交わしているものの、もちろんちせの秘密は知らなかったもの。しかし、札幌の空爆から小樽の空爆へと続き、ちせの出動回数が増えるにつれてその実態が明らかに。そんなある日、愛をたしかめ合おうとした2人だったが、シュウジがちせの胸を開くと、そこに見えたものは……？

そんな風に2人の仲があやしくなっていった時に登場した女性が、シュウジが時々通っていたビデオショップのふゆみ（酒井美紀）。別にシュウジは彼女に特別な気持をもっていたわけではないよう。しかし、誕生日にプレゼントを持ってシュウジを待っていたちせは、仲良く自転車に2人乗りしている姿を見せつけられることに……。やっぱり第2のオンナの出現か、とちせが考えたのもごもっとも……？ そんな子供っぽい「恋愛ごっこ」が日本滅亡のストーリーと平行して真面目に進められるのだから観ている方は大変……。

日本全土の廃虚化を防ぐ手だては？

スクリーン上で描かれる空爆シーンや自衛隊の出動状況はきわめてチャチだが、ストーリーとしては既に日本全土が空爆され廃虚に近づいているらしい。そんな中、「連合軍」が日本に求める戦争終結の条件は、日本が最終兵器彼女を差し出すこと。しかして日本国がとった決断とは……？

ちせの決断とは、そしてシュウジは？

ちせ自身の最終兵器としての性能は徐々に進化していた。それを医学的にコントロールしているのがムラセ（伊武雅刀）だが、もはやその進化は人間の力では制御できないほどに……。他方ちせにとって大切なことは、そのように兵器として進化していくことは、人間の心を失っていくこととイコールだということ……。そんなちせが、「連合軍」の猛攻にさらされ、しだいに廃虚化が進んでいく日本を見てとった行動とは？ そして、ちせの決断を知ってシュウジがとった行動とは？ それは映画を観てのお楽しみに……。 2006(平成18)年1月11日記